学校番号	４１１

令和２年度　公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校 改訂版 現代社会（第一学習社）						
副教材等	最新 現代社会資料集 2020（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１．予習・復習は自分で行うものです。「現代社会」という科目の特性上最新の社会情勢を中心に社会のしくみや問題点を論じていきますので、新聞やテレビなどのニュースには注視し、日常生活の中で身近になるようにメディアには触れていてください。

２．一般的に社会の授業では板書と口述による説明が流れるように行われますので、授業の本筋である板書事項の記述及び整理と口述による説明部分のメモ書きを上手に両立するノートの取り方を要求します。

３．授業に際しては、主体的に参加することを要求します。そのなかで理解できない事項や説明、聞き逃しによる事項などは積極的に授業を止めてください。それが他の人への学習効果のあがる質問になることが多分にありますので、とことん突き詰めて考えることにより、疑問点を見いだす授業の受け方を要求します。

２　学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を新聞、テレビ、インターネット等、様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	作業（課題）プリント ノート	定期考査 作業（課題）プリント ノート	定期考査 作業（課題）プリント ノート	定期考査 作業（課題）プリント ノート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1編　私たちの生きる社会	地球環境問題	○	○		○	a:地球規模で発生する環境問題や日常の生活や資源・エネルギー問題に対して、関心が高まっている。また、科学技術の発達や高度情報社会によって、どのような問題を抱えるようになったかを理解しようとする態度を身に付けている。 b:地球環境問題、資源・エネルギー問題、科学技術が抱える課題、高度情報社会の進展と私たちの生活について、多面的・多角的に考察している。 c:教科書に掲載されている地球環境問題、資源・エネルギー問題、科学技術の発達、高度情報社会に関する図版・写真・資料等を適切に使用している。 d: 幸福、正義、公正等社会のあり方を考察する基盤を理解している。	定期考査 作業(課題) プリント ノート
		資源･エネルギー問題		○	○	○		
		科学技術の発達と生命倫理	○	○		○		
		高度情報社会と私たちの生活	○	○	○			
	第2編　現代社会と人間としてのあり方生き方	第1章　現代に生きる青年					a:青年期の心理の特徴や人権が保障されるに至った経緯、日本国憲法の成立、三権分立、選挙の仕組み等について、理解しようとする態度を身に付けている。 b:青年期の意義、日本国憲法の成立過程や平和主義の特色、三権分立の仕組み、地方自治のもつ課題等について、多面的・多角的に考察している。 c:教科書に掲載されている写真・図版・資料等を適切に使用している。また、裁判員制度や選挙等の仕組みについては、様々な情報手段を使用して、調査する方法を身に付けている。 d: 青年期の意義、政治体制、日本国憲法や平和主義、三権分立等についての知識を身に付けている。	定期考査 作業(課題) プリント ノート
		青年期の意義と自己形成の課題	○	○		○		
		現代社会における青年の生き方	○	○				
		伝統や文化と私たちの生活	○	○	○			
		第2章　個人の尊重と法の支配						
		民主政治における個人と国家	○			○		
		基本的人権と法の支配		○	○	○		
		世界のおもな政治体制	○	○		○		
		第3章　現代の民主政治と政治参加の意義						
		日本国憲法の基本原理		○		○		
		平和主義と安全保障	○	○	○	○		
		基本的人権の保障と新しい人権	○	○		○		
		国民主権と議会制民主主義	○	○	○	○		
		内閣と行政の民主化		○		○		
		裁判所と人権保障	○		○	○		
		地方自治と住民の福祉	○	○		○		
		世論形成と政治参加	○		○	○		

2学期	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	第4章 国際政治の動向と日本の役割					a:国際法の意義、国際連合の役割、人種・民族問題の実態、市場経済の仕組み、財政・金融の仕組み、戦後の日本経済、雇用事情、公害問題、消費者問題等、様々な問題について考える態度を身に付けている。 b:国際法の意義、日本の領土問題、市場経済の仕組み、租税の意義、雇用事情の変化と様々な労働問題等について多角的に考察している。 c:今日の国際社会の動向について、財政・租税に関する統計資料をインターネット等の情報手段を用いて調査・収集し、それらをもとに考察する方法を身に付けている。 d: 国際政治の様々な事柄、経済の基本的な仕組みについて理解し、知識を身に付けている。	定期考査 作業(課題) プリント ノート
		国家主権と国際法		○		○		
		国際連合の役割	○		○	○		
		今日の国際社会			○	○		
		核兵器の廃絶と国際平和	○	○		○		
		地域紛争と人種・民族問題	○	○		○		
		国境と領土問題	○		○	○		
		外交政策と日本の役割	○	○		○		
		第5章 現代の経済社会と私たちの生活						
		経済社会と経済体制		○		○		
		経済主体と企業の活動	○		○	○		
		市場経済のしくみ		○		○		
		経済成長と景気変動	○	○	○	○		
		政府の経済的役割と租税の意義	○	○		○		
		金融機関のはたらき		○		○		
		戦後の日本経済の動き		○	○	○		
		産業構造の変化	○	○		○		
		雇用と労働問題		○	○	○		
		公害の防止と環境保全		○		○		
		消費者保護と契約	○	○		○		
		社会保障と国民福祉		○		○		
3学期	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	第6章 国際経済の動向と日本の役割					a:貿易の必要性、円高・円安の仕組み、南北問題の発生した原因、哲学や宗教、生活の中での仏教や儒教、西洋思想について、理解しようとする態度を身に付けている。 b:貿易の拡大とそれに伴う貿易摩擦、地域的経済統合、哲学や宗教、人間の尊厳や科学的なものの考え方等について多面的・多角的に考察している。 c:教科書に掲載されている写真・図版・資料等を適切に使用している。また、発展途上国の人口問題や食料問題、平等な社会に向けて私たちは何をすべきか等、様々な情報手段を活用して、情報収集を行っている。 d:貿易の必要性、国際協力のあり方、哲学や宗教の役割を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 作業(課題) プリント ノート
		国際経済のしくみと貿易の拡大		○		○		
		進む経済統合		○		○		
		国際経済の動向		○	○	○		
		発展途上国の経済と南北問題		○		○		
		国際協調と日本の役割	○	○		○		
		第7章 現代に生きる倫理						
		豊かな人生を求めて	○	○		○		
		日本の伝統的なものの考え方	○	○		○		
		近代の西洋思想	○	○		○		
		現代に生きる人間の倫理		○		○		

	第3編　ともに生きる社会をめざして	税と社会 東日本大震災後のエネルギー問題をめぐって 人口問題と私たちの未来	 ○ 	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○	a:具体的なテーマから、自分自身の問題として理解しようとしている。 b:原子力発電所の再稼動や人口問題を通して私たちの未来を考察している。 c:教科書に掲載されている写真・図版・資料等を適切に使用している。 d:幸福、正義、公正等の視点から、理解している。	定期考査 作業(課題) プリント ノート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。